

関連項目：教育活動プラン⑥

道徳の時間の授業改善（5年の実践例）

目的

本校では、基本的自尊感情や社会的自尊感情をバランスよく高め、その高まった自尊感情をエネルギーに、社会に出て自己実現を図っていけるような児童の育成を目指している。そこで、道徳の時間を中心に、自己のよさを感じ、積極的にそのよさを伸ばしていこうとする意識が育まれるような授業改善を行った。

内容

● 学習指導過程の工夫

教師が一方向的に教え込むのではなく、自分とのかかわりを考えたり、自分自身を振り返ったりしながら道徳的価値を自分なりに発展させていく子どもの主体性が見える学習指導過程の工夫を行った。
(右は、11月の実践例。)

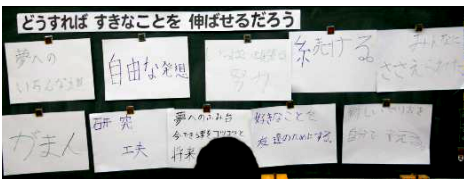
● カード操作の工夫

手塚治虫と自己をつなぐ学習では、個→グループ→全体のカード操作で、個性伸長の道徳的価値に迫った。



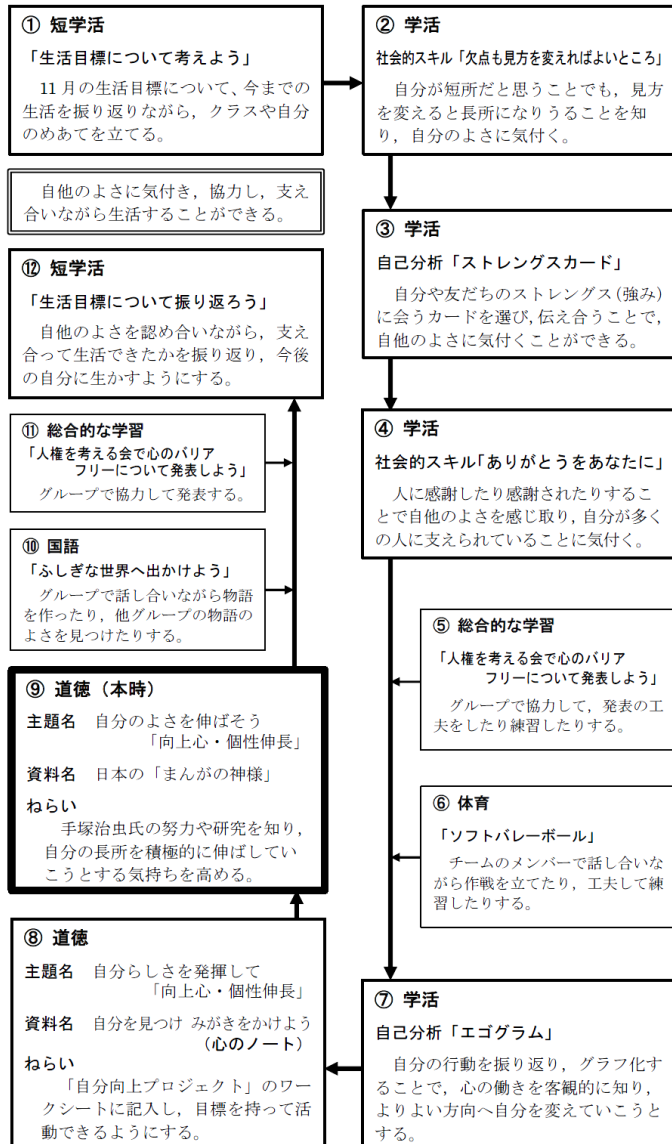
←グループでのカード操作。
↓全体でのカード操作。

カード操作で集約された個性伸長のためのキーワード↓



● 社会的スキル指導プログラムや自己分析の活用

『子どもの社会的スキル横浜プログラム』（横浜市教育委員会）や、スクールカウンセラーと連携した自己分析などの活用によって、自他の良さに気付けるようになった。



生活目標
友だちのよいところを見つけよう

常時活動
・毎日、友だちのよいところを見つけ、伝え合う。(帰りの会)
・委員会活動やボランティア活動(なかま委員会・手話コーラス隊など)や係活動で自分を生かす。

成果

こうした取り組みをすることで、自他の心の状態について関心を持った発言や作文が増えた。また、高校進学や就職など、将来に目を向けられるようになった児童も増えた。これからも、こうした取り組みを、あらゆる教育活動の場において、全職員で粘り強く続けていきたい。